

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE 新築[簡易版]

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年進補版Ver.2 (BPI/BEI対応) 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.11)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	合成第4棟	階数	地上3階
建設地	小田原市高田477	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	6人
気候区分		年間使用時間	8,000時間/年
建物用途	事務所, 工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年1月 予定	評価の実施日	2014年12月9日
敷地面積	3,673 m ²	作成者	(株)日立建設設計
建築面積	951 m ²	確認日	
延床面積	2,866 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆☆

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 参照値: 100%
 建築物の取組み: 64%
 上記+ 以外の: 64%
 上記+: 64%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		その他
総合 工場の用途を最優先としつつも、マテリアルや省エネルギーの部分での環境配慮を出来る限り取り入れた計画とした。		
Q1 室内環境 空調・換気能力を効率的に確保するために、断熱性の見込める外装材を使用し、室内環境の確保を図っている。	Q2 サービス性能 設備の更新が容易に行えるよう、事務所部分はOAフロアを導入し、かつ、清掃・更新が容易な仕上げを採用している。	Q3 室外環境(敷地内) 既存の緑地を残し、かつ建築面積を抑えることで、広い空地率を確保できる計画とした。
LR1 エネルギー 照明に関して、一般室(防爆エリア以外)に関しては、高効率HF蛍光灯及びLED器具を採用し、便所、廊下は、人感センサーにより、省電力を図っている。	LR2 資源・マテリアル エコマテリアル・リサイクル資材の利用を積極的に進める計画とした。	LR3 敷地外環境 既存の周辺環境を壊さず、敷地外への影響を最小限とするよう、コンパクトな計画とした。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 'ライフサイクルCO₂'とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される